

理 事 長 報 告

2020年度を振り返って

一般社団法人 石巻青年会議所
2020年度 第56代理事長 立花善孝

<スローガン>

ひかり輝く^{まち}地域へ

～青年が創る地域のみらい～

<はじめに>

2020年度の一般社団法人石巻青年会議所の活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜りました地域の皆様並びに関係諸団体の皆様に心より感謝申し上げます。本年度は「ひかり輝く^{まち}地域へ ～青年が創る地域のみらい～」のスローガンのもと、事業を構築する5委員会を設置し活動してまいりました。

昨年末から、発生したコロナウィルスの影響により、3月以降の事業は変更を余儀なくされました。例会の開催が出来たのは5月からで、手法を変え目的に乗っ取った事業構築を行いました。コロナウィルスの影響が不透明の中、様々な媒体を使い会議を行い、7月までは活動することに重点を絞り、8月以降から運動発信していくことを、目標に進めてまいりました。10月からは感染対策を行い通常通りとまではいきませんでした。集まったの事業を行うことが出来ました。新たな形へのチャレンジは、決して順調ではありませんでしたが、先輩諸兄が紡いできた明るい社会の実現を目指し、日々模索してまいりました。集まることの出来ないもどかしさの中、この地域に今のような形で発信できるか、メンバーへの資質向上をどのように学んでもらうかを、会員一人ひとりが新たな形での発信を考え進むことが出来たと確信しています。2020年度の報告について基本方針に沿って一年間のご報告をさせていただきます。

<積極的な会員の拡大>

近年、石巻青年会議所は会員拡大が高い志のなか進んでおり、今年度は12名の卒業生を送り出す予定の中、高い目標を掲げておりました。コロナ禍の中、活動の自粛を余儀なくされ制限のある中、5名に入会頂きました。また、本年度10月からは、次年度へ向けた会員拡大を積極的に行って頂き、拡大のバトンを渡すことが出来ました。会員全体での拡大の意識を高める為に3月例会にて、会員開発委員会が「JC運動の根源、会員拡大を学ぶ」を予定しておりましたが、コロナウィルス感染拡大により開催直前の中止となりました。後日、資料を配布し担当委員会が各委員会を訪問し説明することで、組織として変化を起こす必要があることは、伝わったと感じております。4月新入会員セミナーは、6月に

延期をし、WEBを活用して実施致しました。JC基礎知識やプロトコルを盛り込んだセミナーを構築して頂きました。講師には、佐藤俊之先輩をお招きし、各役職を経験しその過程で得たものを、自身の事業にも活かすお話を頂きました。10月新入会員セミナーでは、事業を構築するまでのプロセスを学ぶセミナーを構築して頂きました。講師には、今野貴史先輩をお招きし、JC活動の中で得た繋がり、挑戦する事で出来るようになる、気概が高まるお話を頂きました。どちらのセミナーも、当事者の視点、経験者の視点を参加者が感じたと思います。セミナー修了証書の重みと価値を今年度も変わらず伝えられことは、新入会員がこの経験を活かし組織を牽引する人材へと成長してくれると確信しております。

<活気溢れる祭り事業の創造>

例年開催されております各種地域事業もコロナ禍のため多くの影響を受けました。サン・ファン祭りは、延期での開催を模索しておりましたが、コロナウィルスの収束が不透明であり祭り観覧者の安全面を考慮し9月に中止の判断を致しました。川開き祭りも、祭り観覧者の安全面を考慮し、中止となりました。また、北上川フェアについても同様に中止となりました。通常での開催が可能であった、2月例会では、祭り委員会にて「みらいの石巻川開き祭りのビジョンを描こう！」を開催し、震災復興計画発展期が終わりを迎えこれからのみらいを描く節目の年となるために、講師に、祭り委員長経験者の、松永有一先輩、渡邊智仁先輩の2名をお招きし、これまで実施された事業にある必要性を感じて頂き、今後の祭り事業に希望を持てる事が出来ました。しかしながら、川開き祭りが中止となり、祭り委員会では、感染拡大予防を考慮したうえで何が出来るかを検討し、「無病息災を祈願する茅の輪の作成・展示」を開催いたしました。圏域住民に石巻川開き祭りの由来や、縄張り神社の歴史を知り、無病息災を願うことが出来たと感じております。

<故郷の魅力を創出する事業の推進>

本年度は、まちづくり委員会さん主体で4月公開講演会を講師にフェンシング元日本代表の太田雄輝氏をお招きし「CHANGE 僕たちは変わる」を開催する予定でしたが、コロナ禍の中、11月に延期の対応で進めてまいりました。しかしながら、コロナウィルスの感染拡大が収まらず、参加する一般市民の安全面を考慮し9月に中止の判断をいたしました。新たな試みもある事業だったために、残念ではありますが、この事業を構築した思いは、必ずや今後につながると思います。本年度も、まちづくり委員会にて、川開き祭りJCブースを予定しており、「歌う！踊る！魅せる！I-ONEグランプリ」の事業を組み立てているときに、川開き祭りが中止の判断となり計画が白紙の状態になりました。再度事業を練り直し、家に居ながらも今年だからこそ出来る夏の思い出を作って頂きたくWEB媒体を活用した「おうちで川開きプロジェクト」を開催しました。かわまち交流センターにも茅の輪と共に展示を行い、今年ならではの石巻川開きの歴史を感じる機会となったと思います。

<会員の資質向上に繋がる例会・セミナーの開催>

5月例会では、総務委員会のもと、講師に阿部秀敏先輩をお招きし「実行力を磨く」を開催致しました。コロナウィルス感染拡大の影響により急遽WEBでの配信に変更になったにも関わらず、快くお答え頂いた、阿部先輩に感謝いたしております。思ったらすぐに行動する実行力を講師の経験から学び取り今後のJC活動の一助になったと思います。本例会は、初の配信型例会の設えとなり、聞く例会ではなく観る例会であることを考慮し、構築して頂きました。参加された方にはこれまでの例会の様に伝わったのではと考えます。10月例会では、祭り委員会のもと、講師にアチーブメント株式会社の高木謙

志氏を講師にお招きし、「これからの時代のリーダーシップ」を開催致しました。コロナ禍の中でも、例会が出来るよう、WEB参加も可能なハイブリッド型の例会を構築して頂きました。リーダーシップについて、リードマネジメントを用いて人を変えるのではなく、人が変わる部分を公演頂きました。組織として、多くの人と関わる身として、リーダーとしての学びが多い例会となりました。11月例会では、青少年委員会のもと、「各大会の理解を深めよう」を開催致しました。本例会も、ハイブリッド型の例会を構築して頂きました。本年各種大会等が、中止となり、新入会員をはじめ遠征の経験が出来ませんでした。これまで、行われてきた大会に参加したメンバーが、各種大会した経験を発表して頂きました。ブロック大会の発表では、2015年石巻の状況を発表し、今後の主幹開催に向けて大きな学びとなりました。12月例会では、例年卒業式を開催し、卒業生を祝うはずでしたが、市内での感染者増加に伴い、直前に中止の判断を致しました。本年度卒業されるメンバーをメンバー並びにOBの皆様と、送り出す設えが出来なかったことが、残念でなりません。

<地域のみらいに繋がる青少年事業の推進>

9月例会では、青少年委員会のもと、「進め、ひかり輝く地域^{まち}にむかって」を開催致しました。コロナ禍の中、青少年事業としてどのように地域の青少年に、体験型の事業を構築するかを考えて頂き、エコキャップアートの展示をすることができました。事前に地域のスポーツ少年団等に、一部のパーツの作成のご協力を頂き、当日メンバーにて作成することが出来ました。活動圏域である2市1町での展示も行われ、多くの方の目に届く形を取れました。本年度の政策コンテストは、5年目の節目となる年ではありましたが、市役所と協議した結果中止の判断となりました。しかしながら、次年度へ向け新たな形を模索する1年とし協議してきました。来年度、新たな形での政策コンテストが開催されることを願っております。

<効果的な広報活動と発信・情報公開>

広報の部分では、対外向けに、広報誌の発行を2回と、HPとSNSでの発信、対内向けに情報誌の発行を行いました。広報誌では、第1号で石巻商工会議所会頭青木八洲先輩との対談、第2号で事業報告とメンバーへの取材記事を掲載いたしました。コロナ禍の中、計画予定の配布先すべてとは、行きませんでしたでしたが、圏域住民に、石巻JCへの理解を頂けるものとなりました。また、ホームページでは、本年度から新たな構成にし、観覧者に見やすい形で情報発信が出来ました。SNSでは、様々な情報を、迅速に発信して頂き、石巻JCの運動・活動について興味や関心を持って頂けたと感じております。また、情報誌では、毎月の発行を行い、事業の案内報告は基より、会員の情報を多く取り扱い、集まるのが難しい中、組織の情報共有と会員一人ひとりを繋ぐものとなりました。

<会員相互の情報共有と親睦交流>

会員親睦会では、会員開発委員会のもと、WEBを使った例会を開催致しました。特別会員の皆様を交えてWEBでの試みでしたが慣れない状況の中、新入会員には先輩方からこれまで行われてきた事業の体験談を聞き、JCの見識を広められたと思います。ご参加頂きました、特別会員の皆様には改めて御礼申し上げます。7月例会では、青少年委員会のもと、講師に櫻谷靖雄先輩から公演を頂き「事業への参加とその想い」を開催致しました。各委員長との対談を通しコロナ禍の中、どのような事業構築をしているかを感じ、これからの事業への参加に対する意識の向上に繋がったと考えます。クリスマス会では、会員開発委員会のもと、「クリスマスドライブスルー」を開催いたしました。ご家族も参加される

事業でもあるため、感染拡大対策を考え、つるやさんにて、車に乗りながらドライブスルー形式で、事業報告動画を見て頂き、プレゼントをお渡しいたしました。新入会員が内容を考え、今年度ならではの設えのもと、来て頂いたご家族や会員の皆様が笑顔溢れるものとなりました。

<結びに>

卒業年度に理事長の職を仰せつかり、多くの皆様のお力添えを頂きこの一年を歩むことが出来ました。コロナ禍の中、どのように活動していくかを模索する一年でした。様々な制約の中、どのようにしたら出来るかを考え行動するメンバーは、石巻JCの創始の精神である「青年会議所は、行動する団体である」ことを改めて感じる事が出来ました。3月と4月は、例会を中止・延期の判断をし、活動が止まることに不安もありましたが、各委員会はWEBを取り入れ、委員会を行い、歩みを止めずにいたからこそ、本年度が進められたと感じております。どのような状況下においても、今出来ることを考え行動することが出来る団体である組織力の強さ、そして多くの支えがあることに、ありがたみを感じ続けた年でした。いつも現役に心を寄せて頂いている先輩方、何が出来るかを考え行動する現役メンバーに感謝いたします。

ひかり輝く^{まち}地域へ、我々が創る地域のみらいを描くことが出来た1年に感謝いたします。